埋文とやま

Toyama Prefectural Center for Archaeological Operations

2018.9.30
VOL
144

白岩薮ノ上遺跡出土品（中新川郡立山町白岩字薮ノ上）
《局部磨製石斧》

この石器は旧石器時代のもので、白岩薮ノ上遺跡のものです。
木の伐採や動物解体、皮なめしなど多機能に用いられたと考えられています。

とっておき埋文講座●立野ヶ原遺跡群に思うこと
●わくわく古代チャレンジ２０１８
埋文あらかると●・博物館実習・１４歳の挑戦
センターフラッシュ●特別展　旧石器時代とはどのような時代だったのか！
行ってこられよ●北野の石龕

富山県埋蔵文化財センター

立野ヶ原遺跡群に思うこと

とっておき埋文講座①

はじめに

10月5日から本年度の特別展「旧石器時代とはどのような時代だったのか!」が始まります。現在は、その準備の真っ最中です。

昨年(2017年)は、昭和52年(1977年)に開所した富山県埋蔵文化財センターの40周年、3月には富山県で初めて(しかも同時に3件)考古資料が県指定有形文化財になりました。指定されたのは、いずれも旧石器時代の出土品で、このうちの2件が南砺市の立野ヶ原遺跡群のウワダイラI遺跡と立美遺跡からの出土品です。

県埋文センターの40周年・旧石器時代資料の県文化財指定・旧石器時代の特別展、これらは何のつながりも無いように見えて、つながっています。

日々の出来事や歴史には、必ず経緯があります。経は、「たて糸」、緯は「よこ糸」です。何気ない事がたて糸とよこ糸が組み合わさるように、日々を織り成し、歴史を織り成し後世につながります。特別展の準備をする中で、個人的に「ここにつながったか」という思いをしたので、今回はそのことを書きたいと思います。

立野ヶ原の発掘調査

当センターの40年を振り返る作業と今回の特別展の準備をする中で、あらためて県が行政発掘(公的機関が開発等に伴い行う発掘調査)を始めた頃からの発掘調査報告を見返す機会を得ることとなりました。

行政発掘は、多くの場合が開発に先立つ調査であるため、原因となった開発事業名が目立つことが往々にしてあります。例えば、「○○○自動車道の調査のときに・・・」や、「○○○運動公園建設の調査で・・・」とか、開発事業名を付けた方が、どの遺跡の話をしているのかが通じやすいのです。

立野ヶ原地区の場合は、「県営立野ヶ原地区総合パイロット事業」という農地改良事業が原因でした。パイロットというと、飛行機を操縦するパイロットが頭に浮かびます。県埋文センターでは「立野ヶ原パイロット事業」と省略されて呼ぶことが多いため、いったい何の事業なのかさっぱり分かりません。英語のパイロットには、他にも「水先案内人、指導者、指針」などの意味があり、いわば先駆けとなり、将来の指針を示すような試験的事業の意味でしょうか。

昭和49年(1974年)の立野ヶ原台地(東より)

同上(南より)中央に見える池は桜ヶ池

ともあれ、この大規模な事業の完了目標は昭和51年(1976年)、しかし、発掘調査が始まったのは、昭和47年(1972年)でした。しかも事業の対象面積は480haにも及びます。

旧福光町と旧城端町にまたがって広がる立野ヶ原台地には、100箇所を超える多くの遺跡があります。

当時、県では昭和44年(1969年)に初めて専門職員(調査員)を採用したばかりで、この当時はまだ数名です。しかし、開発は待ったなしです。当時の調査員達は、ブルドーザーに追われるようにして、調査をしたと聞きました。(この辺のことについては、『埋文とやま』第88号(平成16年10月1日発行)の「埋文あらかると立野ヶ原遺跡群」で紹介されています。)今からは想像もできませんが、高度経済成長期の勢いの中、いまだ戦後復興という言葉も最近のことのように感じられた時代です。

開発工事と追いかけっこをするように調査員達は頑張りました。その後、県内で活躍することになる考古学を学ぶ大学生たちの力も借りました。

現在こそ、文化財に光があたり、多くの方々に関心を持ってもらえるようになりましたが、当時は、開発が優先され、特に工事の遅れの原因とされかねない埋蔵文化財には逆風の時代でした。

そんな中、懸命に遺跡の記録保存という形で埋蔵文化財を護った当時の調査員達の努力と苦労は想像に難くありません。

そもそも文化財とは、その地域の風土・歴史が育んだ「文化」の産物である「財(たから)」であり、埋蔵文化財は土地に埋蔵された大事な文化財なのです。調査から40年以上を経て、調査員達が護った文化財は県指定文化財になりました。

立野ヶ原台地に刻まれた歴史

立野ヶ原台地の近代の歴史は、明治時代の後半に当時の情勢を受けて陸軍演習場が設置されました。立野ヶ原という呼称は、演習場設置にあたり、東太美村（ひがしふとみむら）の立野新（たてのしん）にあった全戸が立ち退きにあったことに由来します。（『福光町史』）

陸軍演習場であった歴史を物語るものに「監的壕（かんてきごう）」があります。監的壕とは、「砲弾の命中率や性能などを近くで観察するための施設」（南砺市HPより）です。現在、この監的壕は旧福光町・旧城端町にあったものが1基ずつ南砺市指定史跡となっています。

昭和48年（1973年）に当センターで発掘調査をしていた際に撮影した監的壕の写真が保管されていました。当時と今の様子を見比べてください。

太平洋戦争終戦後には開拓団が入植し、開拓が始まりました。元々の住民と開拓団により開墾は進められましたが、いよいよ昭和36年（1961年）に国が定めた「開拓パイロット事業実施要綱」に基づき、同事業の対象地に選定され「県営立野ヶ原地区総合パイロット事業」は始まりました。

昭和48年（1973年）当時の監的壕

現在の監的壕（南砺市提供）

立野ヶ原遺跡群

さて、前置きが長くなってきましたが、「県営立野ヶ原地区総合パイロット事業」に先立つ発掘調査は、対象地が広く、遺跡も多くあり、発掘調査は昭和47年～昭和52年の6年間にわたり続き、その発掘調査の概要報告は6冊刊行されました。1年次は『富山県福光町 鉄砲谷（てっぽうだに）・向山島（むかいやまじま）・是ヶ谷（これがたに）遺跡発掘調査報告書』として刊行されました。これが「立野ヶ原遺跡群の第1次緊急発掘調査報告」にあたり、その後は『富山県福光町・城端町 立野ヶ原遺跡群第〇次緊急発掘調査概要』として、第二次～第六次までの概要報告がなされました。

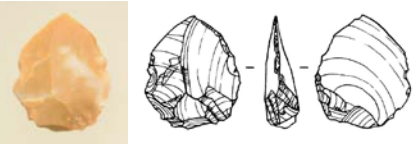
6年間に100箇所以上の遺跡が調査され、その中には旧石器時代の遺跡が多くあり、今回の特別展で紹介する主な県内旧石器時代遺跡約50箇所の内の10箇所以上が「立野ヶ原遺跡群」にあります。

立野ヶ原遺跡群の旧石器時代遺跡の特徴としては、とても浅いところでユニットや石器の出土を確認できることです。当時の発掘調査の写真を見ても、表土から数十センチも掘り下げていないことが分かります。

立野ヶ原遺跡群発掘調査報告書

また、ウワダイラI・L遺跡や西原C遺跡から出土した小型ナイフ形石器は、立野ヶ原の名を冠して「立野ヶ原型ナイフ形石器」と呼ばれ、数々の考古学関連の解説書等に登場します。

現在では、「立野ヶ原型ナイフ形石器」という名称が使われることは少なくなっているようですが、「立野ヶ原」が考古学史にもその名を刻んだことには変わりありません。



立野ヶ原型ナイフ形石器の代表例

旧石器時代の人々が生きた土地は、縄文時代やその後の時代にも人々が営みを繰り返し、戦争に向かう時代の流れの中で、その土地を離れざるを得なかった人々の思いから「立野ヶ原」という呼称に歴史を刻み、その後の発掘調査で出土した石器にも「立野ヶ原」の名前を残しました。「立野ヶ原」は、県埋蔵文化財センターの歴史にとっても忘れることのできない遺跡であり、貴重な文化財です。

（境　洋子）

	遺跡名	調査年		遺跡名	調査年		遺跡名	調査年		遺跡名	調査年		遺跡名	調査年		遺跡名	調査年
1	有田ヶ原A		21	ウワダイラO	1974	41	神明原B	1976	61	中尾台D	1977	81	中地山B	1974	101	南原D	1973
2	有田ヶ原B	1974	22	ウワダイラP	1974	42	神明原C	1977	62	中尾台F	1977	82	七曲	1971	102	南原E	1973
3	有田ヶ原C	1974	23	ウワダイラQ	1974	43	立美	1974	63	中尾台I	1977	83	西原A	1976	103	南原F	1976
4	有田ヶ原D	1975	24	大西	1973	44	立美A	1976	64	中尾台J	1977	84	西原B	1976	104	南原G	1977
5	有田ヶ原E	1977	25	開発田A		45	立美B	1975	65	中尾台K	1977	85	西原C	1976	105	南原I	1976
6	ウワダイラA	1973	26	開発田B	1973	46	立野新A	1975,76	66	中尾台L	1977	86	西原D	1976	106	南原J	1976
7	ウワダイラB	1973	27	開発田C		47	立野新B	1977	67	中尾台M	1977	87	西山A	1974	107	南原K	1976
8	ウワダイラC	1975	28	京塚	1977	48	立野新C	1977	68	中尾台N	1977	88	西山B	1975	108	南原L	1977
9	ウワダイラDⅠ	1975	29	京塚A	1977	49	立野新D	1974	69	中尾台O	1977	89	西山C	1975	109	南原M	1977
10	ウワダイラDⅡ	1975	30	京塚B	1977	50	立野新E	1974	70	中尾台P		90	西山D	1975	110	南原N	1977
11	ウワダイラE	1975	31	是ヶ谷A	1973	51	立野新F	1974	71	中尾台Q		91	番人原A	1975	111	幸台A	1977
12	ウワダイラF	1973	32	是ヶ谷D	1972	52	立野新G	1974	72	中台A	1974	92	番人原B	1975	112	幸台B	1977
13	ウワダイラG	1973	33	坂ズリ		53	立野新H	1974	73	中台B	1974	93	番人原C	1975	113	幸台C	1977
14	ウワダイラH	1973	34	笹倉	1974	54	立野新I	1976	74	中台C	1974	94	番人原D	1976	114	向山島	1972
15	ウワダイラI	1974	35	二郎江門堂台A	1973	55	立野新J	1977	75	中台D	1974	95	万年台A	1976			
16	ウワダイラJ	1973	36	二郎江門堂台B	1973	56	立野新K		76	中台E	1974	96	万年台B	1976			
17	ウワダイラK	1973	37	二郎江門堂台C		57	鉄砲谷	1972	77	中台F	1974	97	万年台C	1975			
18	ウワダイラL	1973	38	二郎江門堂台D		58	中尾台A	1974	78	中台G	1975	98	南原A	1973			
19	ウワダイラM	1973	39	二郎江門堂台E		59	中尾台B	1974	79	中平	1975,76	99	南原B	1973			
20	ウワダイラN	1973	40	神明原A	1976	60	中尾台C	1974	80	中地山A	1974	100	南原C	1976			

※順番は、五十音順
※調査年が空白の遺跡は、昭和52年(1977年)現在で未調査の遺跡

立野ヶ原遺跡群一覧表『富山県福光町・城端町　立野ヶ原遺跡群第六次緊急発掘調査概要』1978年掲載を改変

わくわく古代チャレンジ2018

とっておき埋文講座②

はじめに

当センターでは、毎年夏休みの期間に合わせて「わくわく古代チャレンジ事業」を実施しています。

「わくわく古代チャレンジ事業」は事前応募を必要とする「ふるさと考古学教室」「こども考古学クラブ」と、当センターホールと会議室で随時学習できる「まいぶん研究室」があります。どの活動も埋蔵文化財に関する体験活動や学習をとおして、古代に生きた先人のくらしや知恵にふれ、考古学や文化財への関心を高めたり、夏休みの自由研究のサポートを行ったりするものです。

以下、今年度の取組について紹介します。

ふるさと考古学教室

7月26日（木）～8月9日（木）の11日間に全7教室、21コースで行いました。内容は「大型まが玉づくりを体験しよう（滑石大型まが玉づくり）」「縄文の文様で飾ろう（縄文小物入れ・縄文プレートづくり）」「古代アジロ・アンギン編みを体験しよう（コースター・タペストリーづくり）」「刀鍛冶を体験しよう（ペーパーナイフづくり）」「ガラスの装飾品を作ろう（ガラス玉づくり）」「古代の鏡の鋳造を体験しよう（錫鏡づくり）」「藍染を体験しよう（藍染エコバッグづくり）」です。

応募に関しては、昨年度との変更点として、1家族当たりの応募数の限定、インターネットでの応募中止にも関わらず、今年度は、各教室の募集合計定員310組に対し、のべ516組の応募がありました。中でも昨年度から実施している「刀鍛冶を体験しよう」の教室では4倍近くになるコースがあり、人気の体験となっています。

	楽しかった	勉強になった	難しかった	期待外れだった
大型まが玉	85%	41%	22%	0%
縄文小物入れ	88%	38%	12%	0%
アジロ・アンギン	92%	54%	21%	0%
刀鍛冶	95%	61%	37%	0%
ガラス玉	88%	43%	21%	0%
錫鏡	89%	39%	28%	0%
藍染	85%	44%	6%	0%
				※複数回答可

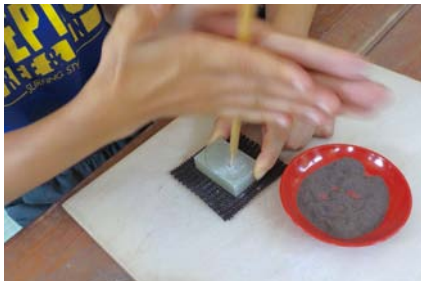
（ふるさと考古学教室アンケートより）

体験者のアンケートから

教室終了後に回収したアンケートでは上記の回答を得ました。全ての教室で「楽しかった」が85%を超え、「期待外れだった」は0%でした。教室に参加した御家族が十分満足したことが伺えます。特に「刀鍛冶を体験しよう」の教室では、「楽しかった」「勉強になった」「難しかった」が最高の割合になり、教室での体験は難しいけれど、難しい分だけ、楽しさと学習に繋がる歯応えのある教室と言えるでしょう。

各教室の感想を紹介します。

○大型まが玉



・大人も知らない事があり、体験のみならず、話も大変面白かったです。来た甲斐がありました♪

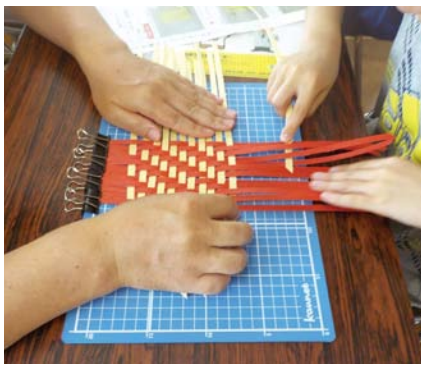
・やりがいがあって、とても楽しく、時間があっという間に過ぎました。また、体験したいです!

○縄文小物入れ

・子供も親も大変楽しむことができました。また参加したいです。

・ただ作るだけでなく、縄文時代の説明をしてくださったので、歴史のイメージをしながら楽しく参加できました。

○アジロ・アンギン



・大人の方が夢中になってしまいました。

・担当の先生が優しく教えてくださり、子供も楽しく学ぶことができました。

○刀鍛冶

・親子で取り組めること、少し難しいことで、達成感があり、とても楽しかったです!
・難しかったけれど、とてもいい体験になった。先生たちがとても親切で、説明も分かりやすかった。

○ガラス玉

・とても楽しく体験でき、時間が短く感じました。(多数)
・旧石器時代からガラスがあったこと等、最初の展示の解説でもっと興味がもてました。

○錫鏡

・本格的な鋳造なのに、手軽な手順で体験でき、とても面白かったです。
・スタッフの先生方がとても感じが良く、親子共々楽しく体験できました。

○藍染

・楽しく藍のことを知ることができて、かわいいバッグが出来上がりました。
・1つ目の作品を生かして、2つ目の作品を作るというのが良く、どんな模様になるか考えて取り組むことができました。

アンケートには多くの意見が寄せられました。肯定的な意見が多く、どれも充実した教室であったことが伺えました。

こども考古学クラブ

今年度のこども考古学クラブは「目指せ未来の考古学者!!」のキャッチフレーズのもと、小学校6年生限定で募集しました。より歴史について学習したいという意欲をもった児童7名が参加し、8月18・20・21日の3日間昼食持参で午前は歴史についての学習、午後は「土器の復元」「土器の拓本」「土器の実測」の体験を行いました。

午後の体験は考古学を専攻しないとできない体験で、子供たちは興味深く体験に取り組んでいました。

まいぶん研究室

当センターホールと会議室を利用して子供たちの自由研究の手立てとなるような研究室を設置しました。

内容は市町村・校区別の遺跡地図と「タッチ・ザ・DOKI」を連携させて調べられるようにすること、

県内施設の下にあった遺跡を紹介すること、

土器の実測に用いる道具に触れること等です。研究室の中に入るときは白衣を着ることもでき、考古学者になりきって遺跡地図を見ている子供の姿がありました。

終わりに

2020年度から小学校の新指導要領が全面実施されます。その改訂のポイントに「体験活動の重視」「県内の主な文化財と年中行事の理解」が挙げられています。当センターがその一翼を担えるように、今後も歴史や考古学に興味をもてるような体験や講座を企画運営していきたいと考えています。

(橘　泰弘)

埋文あらかると

博物館実習

博物館実習は、学芸員資格取得を目指す学生に対して行う実地研修で、博物館に関する人材の育成や博物館活動の普及を目指して行う事業のひとつです。

毎年、当センターでは地元の大学を中心に、学芸員資格の講座受講生を博物館実習生として受け入れています。今年度は3名の実習生を受入れ、7月24日(火)から8月3日(金)までの8日間実施しました。

当センターでは、体験教室の運営補助と課題作成がカリキュラムのメインとなっています。

体験教室は夏休みのふるさと考古学教室と連携し、まが玉づくりや刀鍛冶体験の補助を担当していただきました。体験内容の理解や手順の説明、体験する子供たちへの注意やアドバイスなど、実際の活動を通して多岐にわたる学芸員の仕事を体感してもらいました。

課題作成は、特別展「旧石器時代とはどのような時代だったのか!」で展示する旧石器人のマネキン作成を行いました。国内で出土例のない旧石器時代の着衣については研究成果をもとに復元案スケッチを描くことから始め、革紐や合皮などを素材として3体の旧石器人を作り上げました。あわせて当時の道具も発泡スチロールや自然の枝木等で

復元し、よりリアルな展示を目指しました。これら努力の成果は、展示室で皆さんのお越しをお待ちしています。

また、来年度の実習実施要項については1月にホームページ上で公開する予定です。

（町田尚美）

14歳の挑戦

富山県では、平成11年度から、行動領域が広がり活動的になる中学2年生が、1週間、学校外で職場体験活動や福祉・ボランティア活動等に参加することにより、規範意識や社会性を高め、将来の自分の生き方を考えるなど、成長期の課題を乗り越えるたくましい力を身

につけることができるように、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を行っています。今年度は富山市内の中学校から9名の生徒を受入れました。

館内・館外清掃、体験道具のメンテナンスや、出土品の解説学習などを行いました。

自分たちがまが玉づくりの体験に使用した道具をメンテナンスすることで、体験で使用する人の立場にたってメンテナンスすることの大切さに気付いていました。

職場体験最終日には、他の施設に職場体験に来ている生徒を対象に展示解説を行いました。職員の展示解説をも

とにして、自分なりの言葉を付け加えながら展示解説を行っていました。ここでも、解説を聞く人の側にたって考えるという姿が見られました。

後日届いた礼状には、職場体験を通して、自分の役割に責任をもって働くことの大変さや、人のためになることの喜びを学ぶことができたと書いてあり、短い期間であっても子供たちにとって意味のあるものになったことをうれしく思いました。

（米田　大介）

Center Flash

特別展

旧石器時代とは どのような時代だったのか!

平成30年10月5日(金)～平成31年3月21日(木)

記念講演

平成30年**11月11日**(日) 午後1時30分から

野尻湖の氷河時代
ーナウマンゾウの生きた時代ー

●講師 野尻湖ナウマンゾウ博物館 館長 **近藤洋一**氏
●会場 当センター会議室

平成31年 **2月3日**(日) 午後1時30分から

旧石器時代の ヒトとくらし

●講師 魚津歴史民俗博物館 館長 **麻柄一志**氏
●会場 当センター会議室

行ってこられよ ―《78》

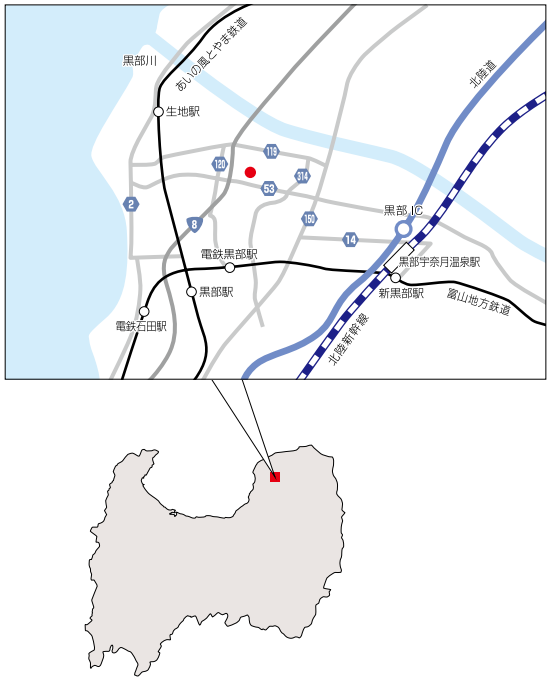
今度の休日、ちょっと出かけてみませんか。

北野の石龕（きたのせきがん）

黒部市北野地内

「龕」とは塔や厨子のことで、ここでは仏像を安置するために造られた石の入れ物を意味します。この石龕は一辺約80cmの切石を組合せ、屋根には笠形の石がのっています。内部には正面に3体、側面に3体ずつの計6体、9体の仏像が刻まれています。

制作年代は南北朝時代（14世紀）とされ、県内に他に類例がありません。



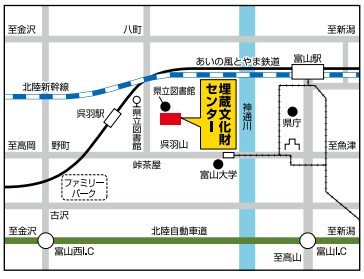
■交通機関
富山地方電鉄黒部駅から徒歩30分

■北陸自動車道
北陸自動車道　黒部ICから15分

編集後記

センターでは、10月6日から特別展を開催します。展示を見て旧石器時代を体感してください。お待ちしております。

（担当　米田）



富山県埋蔵文化財センターニュース「埋文とやま」vol.144

平成30年9月30日発行　編集／富山県埋蔵文化財センター　〒930-0115　富山市茶屋町206-3　TEL076-434-2814

URL http://www.pref.toyama.jp/branches/3041/maibun/

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

富山県